令和３年度 日本大学豊山高等学校・中学校　自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

旧制豊山中学校から118年，日本大学が設置する学校となって67年の歴史と伝統のうえに「強く 正しく 大らかに」を校訓とし，男子生徒の学び舎に相応しい凛とした人材の育成をめざし，中等教育の実践を継続している。

また，卒業後の大学進学を目指しその達成のため本校入学を第一の目的とする生徒の志望にかなう進路指導体制を充実させ，名実ともに中・高・大一貫教育の確立を図っている。

〔本校の特長及び課題〕

交通至便な都心部に位置する私立男子中高一貫教育校としての高い評価を受け在籍数は2,275名（高校1,547名・中学728名−令和３年４月現在）を数える。

昨年度，高校卒業後の進路状況は在籍生徒の93％が大学に進学した。内訳は日本大学への進学が355名（在籍生徒の71%），国公立・他私大への進学が108名（在籍生徒の22%）であった。

教育環境整備の一環としては平成27年４月の新校舎竣工に続き，平成28年12月には中台総合グランドの人工芝化も完成した。生徒はこの環境の中で充実した学園生活を送っている。

さらに，平成30年度から生徒用タブレットの導入を始め，現在は中高全生徒が所持している。全教室に設置した電子黒板と合わせ万全のＩＣＴ教育の環境も提供している。

少子化等の影響で生徒募集は厳しい状況となっているが，本校は新校舎をはじめとしたハード面の充実に加え，高校一般入試での変革などの取組が評価され，受験生の応募も激増した。今後も様々な取組を行い，より良い環境の中で実力ある生徒を伸ばしていきたい。

令和３年度の取組結果

〔概況〕

令和３年度の取組結果を各部署・学年で検討しながら本年度の学校運営を実施してきた。自己評価などを継続することにより教職員の意識の変化もみられる。校務分掌各部の構造改革又は組織体の改革を目指し，その目標に向かって真摯に取り組む教職員の姿勢が認められ，その問題解決に日常努力している。

また，昨年度に続き新型コロナウイルス感染対策に大きな時間とエネルギーを使うこととなり学校運営に大きな影響があった。１学期途中からはオンライン授業や分散登校での授業をせざるを得ない状況となり，授業時間の確保をするため２学期末の後に補充の授業を実施した。体育大会・修学旅行などを含めた多くの学校行事が未実施となった。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」，「高大接続改革」への対応	中学では今年度から新学習指導要領へ移行したが，大きな問題もなくスムーズな移行ができた。特に『観点別評価』の項目が全教科一律となったが，そこについても教科主任会や教務部会において，意見をまとめ，共有することで，特に問題なく評価することができた。 高校では次年度からの移行に向け，カリキュラム検討委員会・教科主任会を中心として，十分な議論がなされ，新学習指導要領に沿ったカリキュラムが完成した。生徒にとっても学習しやすいものになったと考える。	A
ＩＣＴ機器等を利用した授業補充及び自学習の啓発	今年度より，授業の予習復習や自発的な自学習への取組を啓発すべく，「スタディサプリ」を導入した。生徒は動画視聴後の確認テストで弱点強化につながり，教員側は生徒一人ひとりの視聴状況や取組状況が確認できるので，今まで以上に自学習への意欲が強まったと思われる。	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	学期ごとの「いじめ・嫌がらせアンケート」を実施し，担任を中心に学年全体で対応・対処した。各担任は，授業中や休み時間，放課後を利用して，生徒の常日頃からの行動等を見極め，面談等を実施し，いじめ防止と早期発見に努めている。	B
生活指導の基準と理解の意思統一及び指導事項の未然防止への努め	生徒指導に対する教職員間の情報共有の徹底を行い，生徒及び保護者への対応について，初動が重要であることの認識を確認した。保護者への連絡は最低３回行い，指導事項の早い段階で，共通認識を持つことを教員にも促した。	B
研修会の参加及び講演会等の開催	生徒・保護者への研修として，ＳＮＳ利用に関する講演動画配信を実施した。また，動画を配信した学年の中から２学年の保護者を対象に動画内容等のアンケートを実施した。昨年度は実施できなかった警視庁主催の「命の大切さを学ぶ教室」を開催し，命の尊さや人権の尊厳を学んでもらうよう努めた。また，今年度から高３を対象に「飲酒薬物講演会」を実施した。コロナウイルス感染防止の観点から，今年度も教職員対象に研修会を実施することができなかった。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動	【高校水泳部】 全国高等学校総合体育大会四連覇を達成 【バスケットボール部，陸上競技部，ソフトテニス部，自転車部，卓球部】 関東大会出場 このような社会情勢上においても運動部を中心に優秀な結果を収めた部活動が多いことが本校の特色の一つである。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	例年，中３の校外学習で日本大学の学部見学はコロナ対応のため中止とした。高２の７月の日本大学学部説明会は，全学部より担当者を招き，学部の特徴などを説明してもらっているが，本年度は Zoom 開催とした。また，毎年高大連携教育による科目等履修生を推薦し，受講させているが，本年度は法学部（７名）・経済学部（４名）についてはオンラインで実施した。生産工学部（32名）は，対面授業，双方向授業，e-learning は予定どおりに実施した。	B
進路指導の共有化	進路調査の結果や大学入試・付属推薦等の様々な進路情報を，生徒・保護者・教職員へ進路情報新聞「Compass」（Web 版）として毎月１回の情報発信（全11回発行）をした。（８月と９月は合併号）	A
進路指導の充実	進路情報新聞「Compass」を毎月 Web で発信（ＨＰ）し，高校だけでなく中学も各自の進路への意識付けを図った。また，例年実施している社会人セミナーは，リアルタイム型のオンライン開催（Zoom 利用）という形で実施し，キャリアの意識付けをした。各種講演会や保護者会は可能な限りオンデマンド型のＤＶＤ配信という形で実施し，段階的に受験への方向付けをした。また，各種実力テストは一部学校で実施，場合によっては宿題方式で対応し，各自の進路適性，学習計画の見直し等の振り返りチェックを行った。	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員健康診断の年内受診率100%実施	今年度の受診率は２月１日現在で97.8%(89名中87名受診済み)である。 前年度よりは若干　受診率は上がったが年内100%実施まであと一息である。	B
生徒及び教職員の安全	避難経路確認訓練はコロナ感染拡大により，４月の回は新入生だけを対象にした縮小版で実施し，９月の回は中止とした。教職員も生徒もスムーズに行動することができ充実した訓練となった。７月には教職員対象防災訓練を実施，９月には教職員を対象としたＡＥＤ講習会も実施した。(例年は生徒も参加していたが，今年度は密を避けるために教員のみの実施となった。)制限はあったが，その中で感染対策を取りながらできる限りのことはできたことは評価できる。	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「派遣スタッフ」ではない学校司書の配置	専任職員としての「学校司書」の早期の任用を強く望んでいるが，現在は派遣スタッフと図書部教員で選書を行い，発注・受入・配架・蔵書管理を図書主任と派遣スタッフが行うという結果である。司書教諭資格をもつ図書部教員が１名のみであるため，発展的な進捗が滞っている。	C
アクティブ・ラーニングなどへの対応	総合学習や調べ学習についてのレファレンスは，半常駐の図書部教員と派遣スタッフで行っている。タブレット学習が活性化していきつつあるが，「司書教諭」資格をもつ教員がその資格を有効活用できないままであった。図書館が有効に活用されることを想定した図書部の体制が必要だと考えるが，図書館の授業利用に対して，図書部教員がサポートできる体制を整えられぬままであった。	C

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
募集活動	学校説明会開催方法の工夫やWebでの説明会への積極的参加により中学入試・高校入試ともに志願者の順調な募集に至った。	A
広報ツールの拡充と積極的活用	学校案内・出版媒体・ホームページの利用や塾訪問の件数増加が募集活動の拡充につながった。特に中学入試では2021年度に本校で開催された「東京私立男子中学校フェスタ」によるところが大きい。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
職務の明確化	平成29年度から実施し現時点で５年目を迎えた。校務部署に対する所属意識も徐々に根付いてきている。今後も続けていく。ただし，一部署に同じ人間が長く居過ぎないよう，バランスの取れた人員配置を考える必要がある。	B
職務の効率化	平成30年度から実施している。会議資料についてはかなり意識されるようになった。今後も推進していく。	B
デジタルデータのクラウド利用の推進	平成30年度のタブレット端末導入以降『チームドライブ』,『シェアポイント』の積極的な利用を推進している。ＵＳＢ利用の撤廃を進めるため今後も推進していく。	B
発達障害を持つ生徒に対するケアの充実	発達障害カウンセラーを任用し，指導する生徒を抱える先生方の相談窓口とす	A

	る。また，令和２年度以降中学1年生に『実践エゴグラム』を取り入れ，教員・生徒・保護者で結果を共有し，有効活用を試みる。	

※【Ａ達成できた，Ｂ大体達成できた，Ｃあまり達成できなかった，Ｄ達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

【生徒会指導部】

★学校行事に関すること

文化祭について

・人数と時間を制限した上で，模擬店や体育館で集まるようなパフォーマンスは全て中止して規模を縮小した上で実施

・当日は各団体で展示している内容等をライブ配信で中継し，ＨＰでは編集動画を掲載する形態のハイブリッド方式で実施

★部活動に関すること

・活動時間の制限を設け，消毒の徹底を実施

【図書部】

現時点での対応：

・ラッシュの時間帯に生徒がぶつからず，速やかな帰宅を促したいため，放課後は閉館している。

・密な状態を生まぬよう以下①～④の対策を行っている。

①授業利用は１クラスのみ

②対面着席をしないよう机上に「利用禁止席」の張り紙をする

③ＤＶＤ視聴はしばらく休止

④ソファーの利用を中止

・感染防止対策としては，以下①～⑤の対策を行っている。

①図書館入り口に手指用アルコール消毒液を設置

②カウンターには飛沫飛散防止フィルムを設置

③返却本については，ウイルスが減じるといわれている３日間はカウンター内で保管し，貸し出さない

④閉館時には閲覧テーブルとイスを消毒液で拭く

⑤生徒に対して長時間の滞在は遠慮してもらうようアナウンスしている（10分休み・昼休み）

【保健衛生部】

・前年度に比べて今年度は，感染対策を取りながら学校行事をできるだけ実施する方向で動いた

・保護者会・学校説明会など人が集まる機会がある度に，検温を実施する・不織布マスクの徹底・手指消毒の徹底など

・大変な面も多々あったが，人の出入りがあった割には校内クラスターを発生することもなかったのは評価できる

引き続き他部署の協力を得ながら感染対策を強化していきたい

【広報部】

・学校説明会は，会場開催と Web 開催のハイブリッドで実施。特に Web 説明会ではオンデマンドにしなかったことが，会場参加との隔たりをなくし，受験生保護者の心に響いたようである

・次年度も Web 戦略は継続，説明会も工夫を凝らして，受験生保護者のもとに届くよう工夫を行う

令和４年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」，「高大接続改革」への対応	中学では新学習指導要領となり次年度で２年目となるが，今年度同様，特に問題なく授業展開ができると考えている。 高校では，次年度が新学習指導要領１年目となるが，カリキュラム検討委員会等で闊達な議論がなされているので，スムーズな移行が期待できる。また高校でも必須となる『観点別評価』について，中学を参考としながら取り組む予定である。	令和４年度中
ＩＣＴ機器を利用した学習活動の更なる拡充	現在導入中の「スタディサプリ」の更なる利用推進及び新たな学習支援ツールの導入等，生徒の学習活動がより柔軟となるよう，様々な見地から本校に合うものを各委員会において検討する。	令和４年度中

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	いじめの疑いがある案件について防止対策委員会や特別指導委員会，懲戒委員会主導で学年・学校全体のチームで対応する。その際，早期段階から該当学年の教員及び生活指導部主任，教頭が事態の把握し，解決策を検討，各部署で対応する。本年度は残念なことに２件の特別指導事項になるいじめが発生し，うち１件は重大事態へと発展した。以上のことも踏まえ，再度教職員に「いじめ」の定義をしっかり理解してもらい，事例等を基に対応の仕方の徹底を図るよう努める。また専門家の意見も取り入れる。	教職員に「いじめ」の定義をしっかり理解してもらい，事例等を基に対応の仕方の徹底を図り，専門家の意見も取り入れる。
生活指導の基準と理解の意思統一及び指導事項の未然防止への努め	学年の先生方を中心に学校全体で，生徒に対する一人ひとりの共通の認識と対応する。そのためには教員が個々で対応するのではなく，スクールカウンセラーも含んだチームで対応する。また，教職員の情報共有と連携を徹底する。各学年を中心に連携を取って，その都度対応に当たる。内容や状況によって，教職員全員や非常勤講師及び部活動コーチにも周知徹底する。	各学年を中心に連携を取って，その都度対応に当たる。また，その内容や状況によって，教職員全員や非常勤講師にも周知徹底する。
研修会の参加及び講演会等の開催	発達障害・学習障害を含めた現代の生徒の指導の在り方や特別支援，保護者への対応等に必要な研修会への参加。校内における各分野への講演会の実施を検討。保護者に対しても動画配信を利用しての講演。内外問わず，生徒指導のための研修会の参加を奨励する。また，動画配信も含め講演会を本校でも開催し，生徒の理解及び対応の仕方を深める。他校と連携して街頭補	内外問わず，生徒指導のための研修会の参加を奨励する。また，動画配信も含め講演会を本校でも開催し，生徒の理解及び対応の仕方を深める。他校と連携して街頭補導を行う。

	導を行う。	

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
部活動	長時間活動に対する対応	活動制限があるなかで，各自で活動時間の把握に努める

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	学部見学会や学部説明会，付属生のためのオープンキャンパス，体験授業等の機会を増やし，日本大学各学部の良さを知ってもらう。日本大学の各学部の特色や付属生としてのメリットを理解してもらうように「Compass」を通して生徒へアピールしていく。特に，高２の日本大学学部説明会は，各学部の担当者もZoom開催に慣れたこともあり，リアルタイム型のオンライン説明会の形式を踏襲する。	５月：学部見学会(中３) ６月～８月：オープンキャンパス ７月：学部説明会(高２) ９月：文理体験授業 ３月：法学部オープンキャンパス
進路情報の共有化と啓発活動	毎月の「Compass」発行を継続する。ＩＣＴも完備されつつあるので，iPadを利用して全学年ＨＲにおける進路指導を行う。 また，情報収集活動として予備校や大学の説明会・講演会(オンラインを含む)に積極的に参加し，「Compass」等を介して情報発信する。	「Compass」は，前月の最終月曜日を原則として，月１回，年11回の発行を目指す。 ６月～７月に高３担任・特進クラス担任・進路指導部が各説明会等に参加する。
進路指導の充実	卒業生による進路講演会，学部・進路説明会等に加え，キャリア教育への対応を考えた取組を実践する。 コロナ完全終息までは多くの講演会等は自粛となるが，Zoom等を利用したオンライン化を図ることで予定どおりの実施を目指す。	５月：進路講演会(高１・高２) ６月：学部見学会(中３)，他大学説明会（高校特進)，卒業生講演会 ７月：高２社会人セミナー 10月：コース選択ガイダンス(高１) ３月：高１社会人セミナー

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の健康診断の年内受診率100%達成	規定で定められている重要なものであることを周知するとともに，予約状況がある程度確定した時点で受診予約未定者に声掛けをして行く。	８月中旬に予約表を確認し，受診予約未定者に声を掛ける。
生徒及び教職員の安全	コロナをはじめ，生徒及び教職員が感染症にかからないよう健康指導や情報提供を行う。	季節の変わり目に「ほけんだより」を発行し，情報提供をする。折に触れてコロナ対策の情報提供及び指導を行う。

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校司書	文科省が平成28年11月に「学校司書のモデルカリキュラムについて」という通知を大学に向けて出した。これは平成26年に法制化された学校司書の設置について更なる前進を示すものだと考えられる。 今後アクティブ・ラーニングの動きが活発化してくると予想されるので，学校司書の配置について働きかけを行っていく。	順次対応を呼び掛ける。
アクティブ・ラーニング/ＩＣＴ教育などへの対応	「司書教諭」資格者を複数名図書部に配置することにより，ＩＣＴ教育などへの対応を可能にさせる。	順次対応を呼び掛ける。

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
募集活動	学校案内・出版媒体・ホームページの利用や塾訪問の件数増加が募集活動の拡充	年間を通して適宜実施

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
職務の明確化	校務分掌を一人一部署とし校務運営における責任の明確化と分業化を図る。	平成29年度から実施し現時点で５年目を迎えた。校務部署に対する所属意識も徐々に根付いてきている。今後も続けていく。 ただし，一部署に同じ人間が長く居過ぎないよう，バランスの取れた人員配置を考える必要がある。
職務の効率化	校務運営委員会・教職員会議などの資料をＰＤＦ化してペーパレスでの運用の促進をしている。	平成30年度から実施している。会議資料についてはかなり意識されるようになった。今後も推進していく。
デジタルデータのクラウド利用の推進	日本大学の情報管理規定を順守するためＵＳＢメモリー利用の撤廃及び「チームドライブ」,「シェアポイント」の利用の推進を進める。	平成30年度のタブレット端末導入以降「『チームドライブ』，令和３年度からは「シェアポイント」を加えの積極的な利用を推進している。ＵＳＢ利用の撤廃を進めるため今後も推進していく。
発達障害を持つ生徒に対するケアの充実	発達障害カウンセラーを任用し，該当する生徒を抱える先生方の相談窓口とする。 また，令和２年度以降中学１年生から年次進行で「実践エゴグラム」を取り入れ，教員・生徒・保護者で結	令和２年度から年次進行で進める。

	果を共有し，有効活用を試みる。	

中長期的目標の取組結果

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員の職場環境の維持向上と健康管理	変形労働時間制の導入により教員の勤務時間の適正化を図っている。男女を問わず育児休業を積極的に取得することを奨励している。	B
校務部署，委員会，各種会議の見直し	校務部署の人員配置については年度ごとに適性を見て変えている。また，仕事が人につかないよう注意しながら編成をしている。	C
働き方改革に伴う教員の週1日授業を入れない日の設定	日祭日に出張の多い先生を中心に設定を進めている。新カリキュラム移行期には全教員に対して設定できるようにしていく。	C

※【Ａ達成できた，Ｂ大体達成できた，Ｃあまり達成できなかった，Ｄ達成できなかった】

中長期的目標及び方策

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の職場環境の維持向上と健康管理	教職員の一部滞在時間超過者に対し，産業医との面談を推進。業務の見直し。行事の検討を行う。教職員の職務ワークシェアの更なる推進。	毎月
校務部署，委員会，各種会議の見直し	職員会議をはじめとする各種会議の効率化や連絡体制のシステム化を実施。また校務組織体など学校運営組織の全般について，具体的な見直しを図る。	年度ごとに改良し，順次取り組む。
働き方改革に伴う教員の週１日授業を入れない日の設定	教員の有休・振休取得を推進するため，時間割に週１日授業を入れない日を作る。	中高新カリキュラムが全学年に行き渡る令和６年をめどに進める予定であったが，令和４年度から導入する。